

# Insulin-like growth factor II messenger RNA-binding protein-3 is an indicator of malignant phyllodes tumor of the breast

瀧澤, 克実

<https://doi.org/10.15017/1928638>

---

出版情報 : Kyushu University, 2017, 博士 (医学), 論文博士  
バージョン :  
権利関係 : © 2016 Elsevier Inc. All rights reserved.

氏 名：瀧澤 克実

論 文 名：Insulin-like growth factor II messenger RNA-binding protein-3 is an indicator of malignant phyllodes tumor of the breast

(Insulin-like growth factor II messenger RNA-binding protein-3 は乳腺悪性葉状腫瘍の指標になる)

区 分：乙

### 論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は乳腺葉状腫瘍 (phyllodes tumor, PT)における IMP3(insulin-like growth factor II mRNA-binding protein-3)と EGFR(epidermal growth factor receptor)発現の臨床病理学的意義および予後との関連を解明することにある。130例の原発性 PTs(良性 83例、境界悪性 29例、悪性 19例)、34例の再発性もしくは転移性 PTs、26例の線維腺腫症例で IMP3 および EGFR の免疫染色を行った。原発症例において、IMP3 は線維腺腫 (0/26, 0%), 良性 PTs (0/83, 0%) および境界悪性 PTs (3/28, 11%)に比べ悪性 PTs(17/19, 89%)において高発現していた。また悪性 PTs の再発および転移例にも高発現を認めた(それぞれ 3/5 [60%]、6/6 [100%])。IMP3 発現の局在に関して、ほとんどの悪性 PTs では導管と導管の間あるいはより広くびまん性に高発現しているのに対し、線維腺腫や良性 PT では導管周囲の間質に限局して弱い発現(低発現)を認めた。EGFR 過剰発現は腫瘍の悪性度および IMP3 高発現とよく相関した。また、IMP3 および EGFR 過剰発現は無転移生存期間および無病生存期間の短縮ともよく相関した。今回の結果は、特徴的な染色発現パターンを伴う IMP3 および EGFR の高発現が悪性 PT の診断に有用であり予後不良因子にもなり得ることを示唆している。

